

令和7年2月28日

中標津町議会議長 後 藤 一 男 様

中標津町議会議員 山 口 雄 彦

研 修 報 告 書

以下の視察について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 文教厚生常任委員会道内視察
- 2 視察先 帯広市 帯広第一病院
- 3 視察日 令和7年1月27日（月）
- 4 視察事項 P N S看護方式について
- 5 成果（具体的に）

今回、帯広第一病院を視察先に選んだ理由は、帯広第一病院が取り入れているパートナーナーシングシステム（P N S）が質の高い看護を提供できるようになることはもちろんのこと、看護師の離職も少なくなるということ伺ったためです。

町立中標津病院においては、近年看護師の離職が大きな問題となっており、このP N S看護方式が少しでも役に立つのではないかと思います視察させていただきました。

P N S看護方式とは2人の看護師が良きパートナーとして、対等な立場で、お互いの特性を生かし、相互に補完し協力し合う看護提供方式です。パートナー同士の違いを生かし、対等な立場で情報を共有し、信頼と緊張感のある関係性の中で業務の不十分な部分をお互いに補い、相乗効果を発揮していくものです。

帯広第一病院は2018年にこのP N S看護方式を取り入れたようですが、やはり当時は看護師の離職が多く、年間30%くらいの離職率ということでした。看護師の離職に悩まされ福井大学病院が開発したP N S看護方式が離職の抑制につながるのではないかと、視察を行い取り入れたそうです。

実際にペアで働いている看護師を拝見させていただきましたが、互いに尊重し協力して患者さんをケアしていることが十分感じられました。



P N Sの説明

今回の視察を受け入れていただき、また、すべて説明案内していただいた林看護部長に町立中標津病院の実情を話したところ、看護師の離職はどこの病院においても課題となっていること。帯広においては看護師養成機関が4あるが、各病院が奨学金を与え、その金額も年々高額になっており、看護師争奪戦になっていること。トラベルナースとって、どこの病院にも所属しない派遣の看護師が増えていること。また、実は令和6年診療報酬改定後、帯広第一病院においても離職者が増え、昨年6月以降、約20名が辞めていることなどを教えていただき、現在はこの診療報酬改定とPNS看護方式をどのようにリンクさせていくかが課題となっているとのことでした。

看護師不足という現実やはり難しいものだと考えさせられました。ただ林看護部長が最後におっしゃられた『中標津病院は公立の病院なので退職金を目玉に募集してはどうか』という言葉にハッとさせられました。別海病院も標津病院も公立ではありますが、少し研究しても面白いかもしれません。

4 視察事項 帯広市教育委員会 ひろびろチョイス

5 成果（具体的に）

中標津町においても子供たちの不登校問題は、なかなか解決の糸口さえ見つけられない切実な問題です。そこで帯広市が2023年より行っている、メタバースを活用したオンライン教育支援センター「ひろびろチョイス」を視察させていただくこととしました。

まず、帯広市教育委員会学校教育指導課の小林課長と松本指導主事より帯広市における不登校の現状とその対策としての「ひろびろチョイス」の説明を受けました。

「ひろびろチョイス」は不登校児童生徒に居場所と学びの機会を提供することを目的としています。現在、帯広市の不登校児童生徒数は380名程となり、そのうちの主に心理的要因や集団不適應等によって不登校の状態にある139名（令和5年）が学習や体験活動を目的に「ひろびろチョイス」を利用しています。

「ひろびろチョイス」にアクセスできるのは毎週月曜日から金曜日の10時～14時15



ひろびろチョイスの説明

分まで。学びの時間は1日3校時（1校時45分間）で、その他に「おはようタイム」「ランチタイム」「またねータイム」が設けられている。しかし、入室も退室も個人の自由。場所も時間も「チョイスできる（自分で選べる）」のが「ひろびろチョイス」の大きな特徴らしい。邪魔されずにひとりで学びたい時は「ひとりスペース」。他の参加者と対話しながら学びたい時は「わいわいスペース」など、自己選

択や自己決定する機会を出来るだけ設けることを重視している。

また、火曜日の「クラブチョイス」や木曜日の「遠足チョイス」ではオンライン上での交流のほか、リアルでの卓球や川下り、収穫体験などを行い、将来子供たちがリアルな社会で自立して生きていけるよう考えられています。

この「ひろびろチョイス」の目的が学校復帰ではなく、社会復帰であるということに感銘を受けました。

この仮想空間を利用した「ひろびろチョイス」は中標津町においても有効な手段なのではないでしょうか。1名分の人件費と年間60万円ほどの運営経費で賄えるらしく、研究すべきと考えます。

- 2 視察先 美幌町役場
- 3 視察日 令和7年1月28日（火）
- 4 視察事項 申込バス「もーびー」
- 5 成果（具体的に）

中標津町においても令和7年度よりデマンドバスの試験運行が始まる予定です。今後協議会が中心となり、運行形態などを決めていくと思いますが、当委員会が所管ということもあり、美幌町で運行されているデマンド型公共交通を視察させていただき、その知見を生かして町民生活部との情報交換などに役立てればと思います。



美幌町議会議長から歓迎のご挨拶

申込バス「もーびー」の基本情報

- ・乗車料金：大人300円、子供（小学生以下）150円
- ・運行時間：10時～15時
- ・運休日：年末年始運休
- ・運行形態：デマンド型乗合タクシー
- ・状況：乗車前に電話申し込み
- ・路線バスのバス停ともーびー専用バス停で乗降可
- ・タクシー事業者に業務委託【町が車両を貸与（8名乗り）】
- ・R6年度の運行経費は800万円、運賃収入160万円

特に優れていると感じたのは、もーびー専用バス停を新たに設置して、きめ細やかな交通計画をつくりながらも、タクシー事業者への配慮でドアツードアにできなかったこと。ま

た、「暮らしやすい町をつくるには、町がこのくらい負担してもいいよね」の精神。運行経費の負担、バス会社タクシー会社への二種免許取得費用の補助や乗務員採用試験の旅費支給など数多くの支援を行っています。

補足ですが「もーびー」よりも、もっと小回りの利く施策を検討中とのことでした。

- 2 視察先 網走市
- 3 視察日 令和7年1月29日（水）
- 4 視察事項 網走市立郷土博物館・モヨロ貝塚館
- 5 成果（具体的に）

築90年ほどになる郷土博物館は、当時は相当モダンな建物であったに違いなく、今も威厳を感じる建物でした。中に入るとさすがに老朽化は否めなく、管理の大変さが心配されます。

1階が網走の自然をテーマに、海のゾーンと山のゾーンに分かれています。

2階は網走の歴史をテーマに、江戸時代から現代へと続く網走の歩みを紹介しています。

江戸時代、近江商人により網走が開拓され、現在の網走が形成されていったことなど、大変興味深かったです。

モヨロ貝塚は小学校の見学旅行でよく行かれるのではないのでしょうか。私も子供のころ行ったような気がします。現在のモヨロ貝塚館はまだ新しく、駐車場から入場口へのエントランスがとても便利にできており、お客様がストレスを感じることなく入館できるようになっています。難点を言えば修学旅行などの団体を扱うには、もう少し入口ロビーが広い方が良かったかもしれません。

2つの施設を視察した感想ですが、郷土館、博物館というものは、やはり利益を生むものではないということが改めて理解できました。見学者はある程度いるとは思いますが、入館料の安さを考えると、建物や展示物などの維持管理費は到底賄えるものではありません。中標津町において郷土館を建設することがあるのならば、それらのことを考える必要があるのではないのでしょうか。



郷土博物館前にて